資料5

環境計量証明事業の現状と問題点

株式会社 住化分析センター
高 橋　稔

株式会社住化分析センターの概要

- **会社概要**

  設　立　：1972年7月1日
  資本金　：2億5千万円(‘05/4)
  従業員数：1180名
  売上高　：12,041百万円(‘04/3～’05/3)

- **業界トップクラスの総合分析試験サービス**

  環境調査･測定、医薬品･バイオ、エレクトロニクス、化学･工業製品･原材料、危険性評価、食品分野　等

- **取得済み認証･認定制度**

  環境計量証明事業、MLAP、ISO9001、JIS Q 17025、ISO14001、GLP、**BAM　等**

環境計量証明者の社会的責務

品質方針

- 最高の分析技術を通じて人類と社会に貢献
- お客様の信頼と満足を得る品質を提供
- 品質システムの国際規格への適合性維持と継続的改善の実施
- 専門家責任を遂行

計量証明事業規定

- 社会的責任を自覚、適正な計量証明の実施
- 計量に関する技術の向上
- 関係法令の理解の増進

環境計量証明事業の現状(1)

環境計量制度

1) 環境計量士;個人の能力や責任に依存 (職務規程)
一度資格を取ければ更新無し

2) 設備;必要最低限の設備で実施可能

3) システム; 精度管理、品質管理のシステムがない

人、設備、システムの三要素が不十分

環境計量証明事業の現状(2)

●公的認証･認定制度の必要性

認証･認定には関係なく受注できる　42.5%　(120機関)

●公的認証･認定制度の取得状況

	ISO 9000s	ISO 17025	GLP
取得済み	49.50%	12.00%	3.70%
検討中	32.70%	39.10%	20.70%
関心なし	17.80%	48.90%	75.60%
回答機関数	107	92	82

出典:(社)研究産業協会　平成16年度 検査･分析委員会 活動報告書

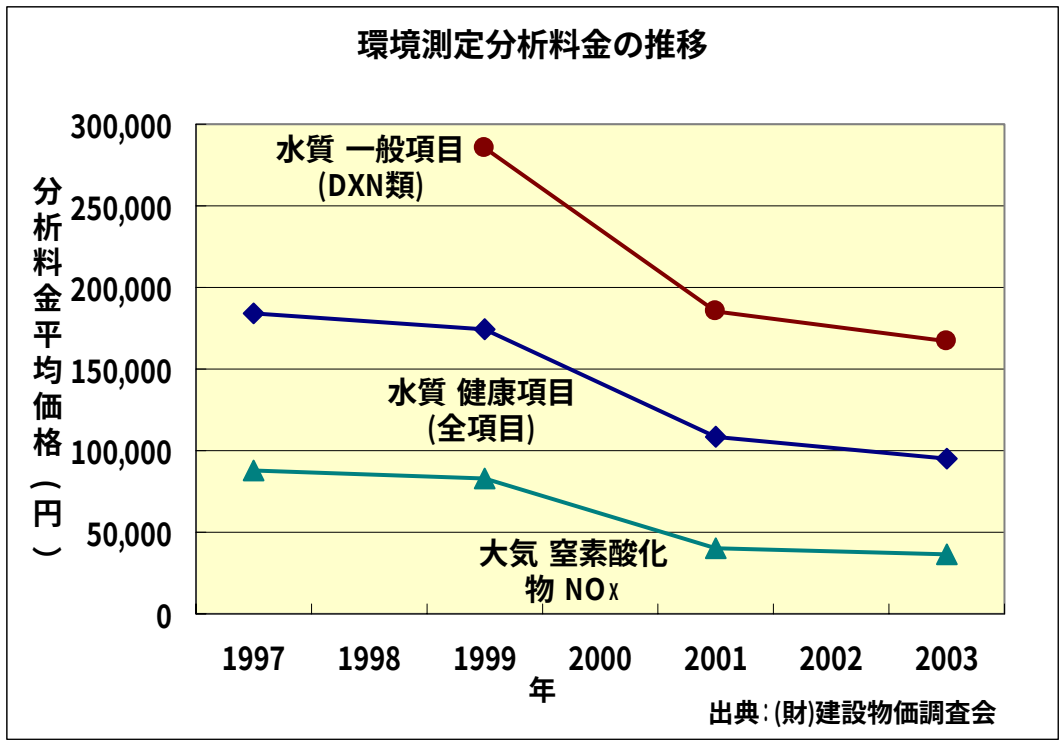
環境計量証明事業の現状(3)

環境測定分析料金の推移

- 年々価格は低下傾向にある
- 理由

  競合相手の増加

  合理化の効果



環境計量証明事業の問題点(1)

環境計量士

最新技術の習得･研鑽は個人主体 / 研修制度等必要

設備

分析の高度化、迅速化への対応が困難

- ･分析の自動化が計量証明に使用不可
  COD測定、ｵｰﾄｱﾅﾗｲｻﾞｰ(ｼｱﾝ、ﾌｪﾉｰﾙ等)
- ･新手法、新装置の公定法への採用が遅れている
- ･簡易法の使用が認められていない
  条件付ででも認められれば、分析の合理化、
  分析の迅速化にメリットがある

社会のニーズに合致していない

環境計量証明事業の問題点(2)

システム

・品質システム改善機能

システム	立入調査・審査	内部監査
環境計量証明事業	不定期 (数年に1回程度)	不要
ISO/IEC17025	更新;1回/3年、維持;1回/年	必要

・精度管理の維持
　技能試験の種類が少ない

ＭＬＡＰ（特定計量証明事業）の現状(1)

・経済産業省と環境省で各々独自の精度管理

　経済産業省：MLAP

　環境省　　：環境省精度管理指針(受注資格審査)

・人の組織・体制のシステムに差があり、**制度的に相容れないものがある**

　⇒　ダブルスタンダード

　　分析試験所の負担増大

ＭＬＡＰ（特定計量証明事業）の現状(2)

- ＭＬＡＰと環境省受注資格審査の主な相違点

	MLAP	環境省受注資格審査
統括責任者	計量証明事業全般に責任を有する	DXNの測定業務全体について責任を負う 組織に関する文書の作成、維持･管理
計量管理者	環境計量士	技術管理者 （DXN測定について豊かな知見と優れた能力を有する者）
品質管理者	計量証明事業の品質管理に責任、内部監査を実施	DXNの測定における品質管理に優れた能力を有する者 内部監査を当人が実施
測定担当者	ー	DXNの測定に係る業務を的確に処理することができる者

ＭＬＡＰ（特定計量証明事業）の問題点

- 独自の認定システムに基づく認定であり、国際規格に整合していない
- MLAP、環境省受注資格審査、ＩＳＯ 17025との個別管理が必要
- 分析コストと受託料金の格差

  適正な精度管理にかかる工数、コストを分析料金に反映することは困難

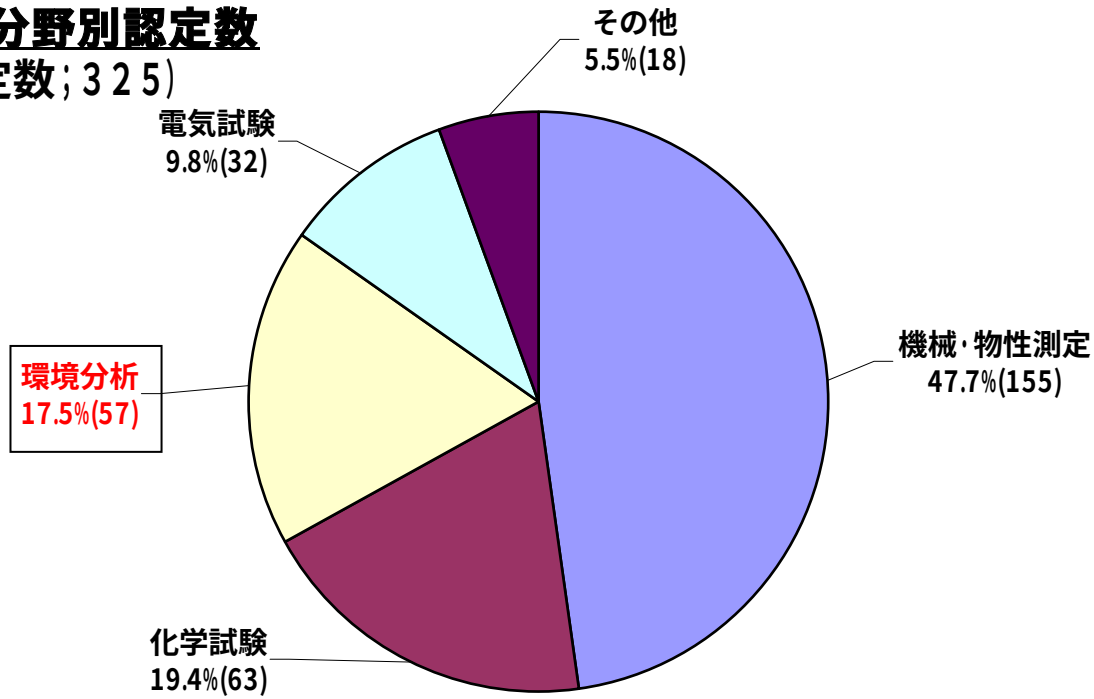
試験所認定（ISO/IEC17025）取得の現状(1)

●分析データの信頼性向上
　精度管理の徹底、技術ﾚﾍﾞﾙ維持向上
●海外ビジネスに有用

▲計量法、MLAP、環境省受注資格審査に整合していなく、適用できない
▲国内ビジネスに反映していない
▲国内では認知度が低い

試験所認定（ISO/IEC17025）取得の現状（2）

ISO17025分野別認定数
（総認定数；３２５）



出典；主要審査機関（JNLA、JAB、JCLA）HPからの抜粋

＊）環境分析分野は認定項目数が少なく、ダイオキシンが主体(25ﾗﾎﾞ)

試験所認定（ISO/IEC17025）取得の問題点

- 顧客から認定取得要請がない
- 経済的メリットが不明
- 認定取得・維持に経費と労力がかかり過ぎる
- 認定分野が細分化され、取得しにくい
- 全部門の認定は現状では不可能

出典：(社)研究産業協会　平成16年度 検査・分析委員会 活動報告書

今後に期待すること

- 環境計量証明制度
  システム的な精度管理、品質管理の採用
- 特定計量証明事業（MLAP）
  国際基準への整合化が必要
  横断的なシステム
- 社会ニーズに対応した新手法・新機器（最高技術）の早期採用

当社の考え方

- ＩＳＯ９００１からＩＳＯ/ＩＥＣ１７０２５への移行

  一段と高い品質レベルのシステムへの移行

- 国際的に信頼されるＬａｂｏｒａｔｏｒｙの構築

- 新しい分析技術の開発及び提案